

目的 子どもたちの学校給食や勤労者の昼食外食、あるいは、家族全員での外食など近頃は外食をする機会が増加している傾向は見逃すことはできない。食生活の中での外食のウエイトが高まるにつれ、健康生活確保のために外食の実態を明らかにすることを研究の目的とした。筆者らは、前回、外食を外側から、主として提供者側から検討するため、都内飲食店で販売している料理についての栄養価と金額について報告した。(オ18回家政学会総会)今回は、家庭の内側から、主として主婦および女子大生の食生活の意識と外食について調査研究を行ったので報告する。

方法 資料の一部は、総理府委託の家庭生活総合調査の原票を用いた。対象は、都市およびその周辺に居住する中流家庭の①主婦588人と②女子大生270人である。時期は①は昭和45年11～12月、②は昭和46年6月で、傾向紙による記入調査を実施した。

結果 主婦については家族ぐるみの外食、女子大生については自分自身の外食の目的を問う、接客、手廻(ふだんの食事)など家庭生活の管理の面から観察した。また、外食の費用の支弁方法から、主婦については、家庭生活の経済的なゆとりなども見ることができ、その結果、若い主婦と年令のすすんだ主婦のちがひ、子どもの成長による家族周期段階の差異などがわかった。また、外食費については、外食費と食費の相関及び係数、さらに、主婦・主人・女子大生の外食費の比較を試みた。その他、主婦・女子大生の食生活に対する慣業や考え方について多少の傾向を得た。